

第9章 まとめ

地域の歴史文化資源を総合的に把握することで、地域の個性や歴史的特性がうかびあがってくる。高砂市の通史をふり返ると、さまざまな歴史や文化が展開していることが確認できた。歴史文化を反映した資源が、市内各所に残されており、歴史文化基本構想を策定するにあたって、文化財調査を実施した。

【文化財調査成果の概要】

【建造物】

建造物・まちなみ調査では、築50年以上の歴史的建造物と、集落を構成するまちなみについて調査した。635件の古民家と49件の近代化遺産、127件の社寺建築、計811件が確認された。

市内8地区それぞれに、歴史的建造物が保存されていることが判明した。なかでも、県の歴史的景観形成地区に指定されている高砂地区は262件と最も多い。沿岸部の伊保・曾根地区も含めて、近世に形成された集落に多くの建造物が残されている。一方、内陸部の各地区でも、小規模集落ごとに分散しながらも歴史的建造物が残されている。採石や製塩、舟運などの生業や地理的要因などの違いによって、建築様式や残存状況は異なっている。

これら建造物が構成する景観は、連続し集積した歴史的な町並みを形成するに至っていないが、地勢や歴史的背景に影響を受け、地割にもとづき、それぞれに地域特性をもちながら、時代の変遷を経て、現在もなお、歴史的景観が残されている。

【史跡】

竜山石は、歴史的建造物のほとんどで基礎石や塀、側溝などに用いられている。竜山石の生産地である石切場は、現在も稼働し続け、独特の景観を形成しながら、空間保全されている。石切場の近隣住民のアンケート調査では、「残したい景観」の上位に、歴史的景観だけでなく、現代的景観や改善が必要な景観の回答があった。地域住民の意識は、生活世界を踏まえたもので、総合的な歴史文化遺産の把握が必要であることを認識させられる結果となった。

3次元測量による石切場の地形復元は、視覚的にわかりやすくかつ正確な情報が得られ、歴史的景観を構成する景観要素を把握するうえで、基礎資料とすることができる。

今後の竜山石切場の保存と活用に向けて、調査とともに、地域住民の視線を視野に入れながら取り組む必要がある。

【石造物】

1700年以上にわたって生産され続けてきた竜山石の製品は、市域の全域に分布し保存されている。各地区の近世集落を中心とする区域に、中世石造物が356件、近世石造

物が379件以上分布している。遺体を納める棺、信仰対象の石造美術、道標や日常雑器、これらは、当地の石工によって生みだされた石造物である。

長い生産活動の中で、盛衰はあるものの、伝統につちかった技術力が、時代を超えて、現在まで作品をつくりつけてきた。石の文化は、日常生活の中に溶け込み浸透している。

【墓石】

仏教信仰が庶民に浸透し、近世以降、個人にも墓が建立されてきた。市域すべての86ヶ所の寺院や集落共同墓地に、計29,677基の墓石が残されていることが、調査で明らかとなった。墓標の形態は、多岐にわたり、時期によって変遷している。昭和戦後以降に方柱型墓標は爆発的に増大している。墓碑銘には、戒名や生没年、履歴などが記され、人々の生前の生きた証が刻まれている。石材は、沿岸部に和泉砂岩が用いられ、花崗岩製など他地域産出のものも用いられているが、地元産の竜山石が1900年以前の墓標のうち65.8%を占め、かつては竜山石を多様していたことが確認できた。

近年は、外国産花崗岩の利用が目立つ一方で、古い墓石は整理され減少している傾向がある。身近で生活を反映した石造文化財として墓石をとらえ、保存活用の対象としてとらえていくことも、今後の課題としてあげられる。

【文献】

江戸時代、竜山石は木造建築の基礎石として、周辺地域だけでなく、海路運ばれて、大坂や兵庫へ流通していた。明治時代以降も同様に、基礎石や石垣用石材が、畿内地方に広く流通した。流通をになった石間屋である旧家の文献資料を解説することで、当時の様子が明らかとなった。4,228通の文献の中から抽出し解説した結果、生産組織や、製品の流通・値段・取引の実態などが明らかになったほか、販売店員の生活や苦労話まで、赤裸々に記録されていた。手紙やはがき、電報のやり取りが、克明に記録され保存されてきたからである。1700年にわたる生産流通にかかわった人々の一端をのぞき見ることができた。

【民俗】

人々は、生業を営みながら、地域で育み継承してきた風習・習俗・祭礼・年中行事などを続けてきた。地域に残された民俗文化財を調査し、現状を把握することで、くらしに息づいてきた、身近な歴史や文化財を再認識することができる。

夏の行事、七夕・盆踊り・地藏盆や、神社で行われている秋の祭礼、祭礼を支える地縁組織を調査した。子供と関

わる情感豊かな七夕行事や、地域ごとに一斉に行われる地藏盆は、地域のコミュニティ形成に資するものになりうる。市民自主運営による盆踊りは、伝統的な踊りとは離れているが人的交流を生み出す。秋の祭礼は、年に一度最高潮を迎える機会でありながら、永らく継承してきた伝統的な神事も粛々と行われている。祭りは地縁組織と新しい住民が接する機会ともなり、継承と再生を地域コミュニティ内で育むことができる。

【岩石】

凝灰岩製の竜山石は、これまで、柔らかくてもろく、風化しやすく、利用しにくい評価が存在してきた。今回、花崗岩と大谷石とともに、岩石分析を行った結果、竜山石は他の石材に比べて、圧縮強度が大きく、大きな力にも伸縮し、丈夫な石であることが判明した。岩盤の節理が採石に適し、加工しやすい岩石であるため、採られ続けてきた。同じところで、赤・青・黄の3色の石材が採石できる石切場は、竜山以外はない。長い採石の歴史が培ってきた根本である石材の特徴を明らかにし、将来に向けた生産・商品の基礎資料を得ることができた。

【歴史文化のテーマ】

高砂市の通史をふり返り、文化財調査を実施した結果、さまざまな歴史や文化が展開していることが判明してきた。歴史文化を反映した数多くの歴史文化資源が、有形無形を問わず、市内各所に残されている。これら地域の資源を総合的に把握することで、より明確に深みをもって、地域の個性や歴史的特性がうかびあがってくる。

今回の文化財調査では、通史において高砂市の歴史文化を特徴づけていると考えられる、竜山石に関する歴史文化資源、街道や旧河道付近に成立した旧市街地について、その特徴を浮かび上がらせる7分野の調査を行った。

その結果、高砂市の歩みの中で、個性的な自然や歴史的役割に裏打ちされた、下記の4つの歴史文化のテーマが、浮かび上がってきた。

【竜山石の文化】

竜山石は年代ごとに役割を変え、地域ごとに様相を変えながら使われ、市内全域に数多く存在し、くらしに密着したところで受け継がれている。竜山石の資源を発見することで、高砂市や周辺地域の歴史を再認識することができる。

竜山石利用の年代や用途の違いが、時代ごとの歴史的役割や、地域ごとの文化財の違いを推し量ることもできる。竜山石を広域的に流通させた生産・加工・運搬・交易のシステムに着目すれば、河川や港を活かした交流拠点としての歴史的役割も浮かび上がってくる。

年代別では、古代・中世・近世・近代ごとに、製品の用途が異なり、地域としては近世成立の旧集落単位で資源が

集積し、地域と竜山石との関わりが浮かび上がってくる。

「竜山石の文化」に係る資源は、それぞれ関連しあいながら、全市にわたって分布し、関連文化財群として位置づけることができる。

【白砂青松】

「白砂青松」は、「うみ」に由来するテーマである。古来より美しく神秘的な風景として、古代の万葉集や中世に成立した謡曲「高砂」にうたわれた、高砂の原風景である。海岸の埋め立てや工業化の波の中で、失われてしまったように見えるが、「白砂青松」の痕跡や記録は、人々の記憶や思いの中と相まって今にも受け継がれている。こうした痕跡や記録は、それ自体が貴重な歴史文化資源であり、かつて存在した高砂の原風景を語り継ぐうえでのよすがとなる。

【塩づくり】

「塩づくり」は「うみ」に由来するテーマで、地域固有の自然地形を活かして成立し、地域の発展に寄与した産業である。「白砂青松」と同様、高砂を象徴した古くからの生業として、地域の支えとなってきた。

製塩業はすでに終息し、失われたかに見えるが、製塩従事者の集落や塩田地主の建造物、製塩技術の伝播記録など、痕跡や記録は残されている。

地域の環境に根ざした産業を考える上で、忘れることのできない産業がかつての製塩業であり、高砂市が失いかけた歴史文化を受け継ぎ、発展させていくうえで、貴重なテーマといえる。

【みなとのまち】

高砂市を南北に流れる「かわ（加古川・法華山谷川・天川）」に由来するテーマで、「やま（竜山）」と「うみ（播磨灘）」をつなぐテーマでもある。川と川、海と川のそれぞれが交わる場所には、水・人・物資が集積し、集落が形成され、交易・交流する場として、「みなとのまち」がうまれる。

「みなとのまち」は、人と物が行き交う拠点であり、人と人の交流から文化が生まれ、祭りが営まれた。各河川沿いに形成された港町は、こうした歴史を物語る歴史文化資源が集約して存在している。歴史的建造物やまちなみ、祭礼・伝統行事などが、地域ごとに、個性に富んで展開し分布している。

また、「やま」と「うみ」が交わる場でもあり、「竜山石の文化」や「白砂青松」「塩づくり」に係る歴史文化資源も集積している。

これらの歴史文化のテーマや、テーマにもとづく関連文化財群は、今後、文化財調査に限らず、地域のまちづくりの中で、行政や市民、企業が連携し、主体的な意識で再発

見することを通じて、新たな発見や認識、視座が生まれてくるものと考えられる。今回の文化財調査ですべてが明らかになったわけではなく、今後に向けたあらゆる地域活動の取り組みの中で、地域の将来像をえがく第一歩と考えたい。

高砂市文化財総合的把握モデル事業

文化財調査報告書

2011年3月18日発行

編集・発行 高砂市教育委員会
〒676-0021 兵庫県高砂市荒井町千鳥1丁目1番1号
Tel.079-442-2101

印刷 交友印刷株式会社 はりま支店
〒675-0064 兵庫県加古川市加古川町溝之口251番1-101
Tel.079-456-1251
